

経済・金融 フラッシュ

【東南アジア経済】

ASEANの貿易統計(6月号)

～輸出は増勢鈍化も好調継続

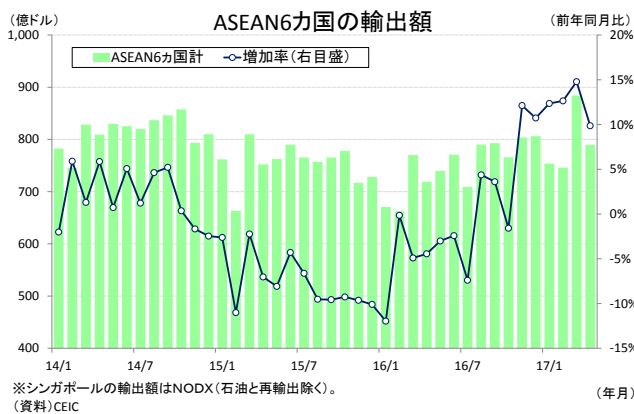
経済研究部 研究員 齊藤 誠

TEL:03-3512-1780 E-mail: msaitou@nli-research.co.jp

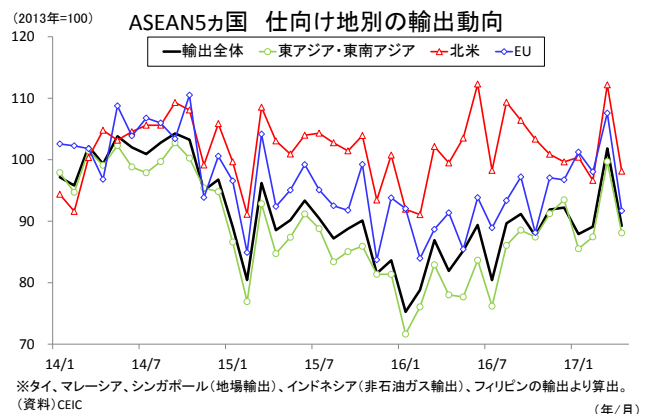
17年4月のASEAN主要6カ国の輸出(ドル建て通関ベース)は前年同月比9.9%増と、前月の同14.8%増から低下した(図表1)。輸出は16年からの国際商品価格の上昇や海外経済の回復による一次産品や電気・電子製品などの需要拡大を受けて増加傾向を続けているが、これまで輸出を押し上げていた価格上昇の要因が剥落するなかで増勢が鈍化しつつある。先行きの輸出は当面高めの伸びを維持するだろうが、中国経済が再び減速に向かうなかで緩やかな伸びに落ち着いていくものと予想する。

なお、ASEAN5カ国の仕向け地別の輸出動向を見ると、4月は東アジア・東南アジア向けと欧州向け、米国向けが揃って伸び率が前月から低下したものの、概ね増加傾向は続いている(図表2)。

(図表1)



(図表2)

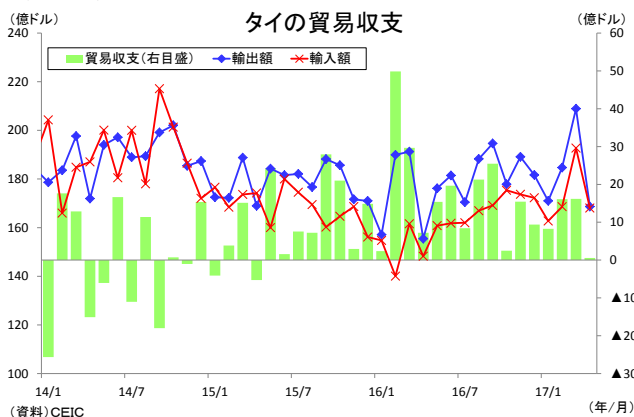


タイの17年4月の輸出額は前年同月比8.5%増と、前月の同9.2%増から低下した。輸出の伸びは上下に大きな振れを伴いながら、16年の資源価格の上昇と電子製品やゴム製品、石油製品の海外需要の増加を受けて回復傾向が鮮明になっている。一方、輸入額は前年同月比13.4%増と、前月の同19.3%増から低下した。結果、貿易収支は0.6億ドルの小幅の黒字となり、前月から15.5億ドル黒字が縮小した(図表3)。

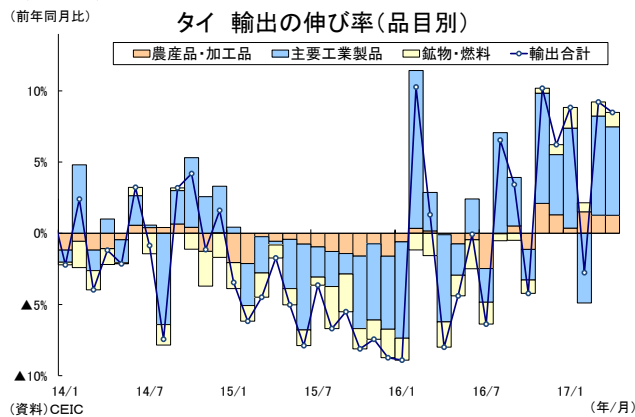
輸出を品目別に見ると、全体の約8割を占める主要工業製品は同7.9%増と、前月の同8.7%増から低下した(図表4)。工業製品の内訳を見ると、航空機・船舶・機関車(同242.0%増)と急伸したものの、主力の自動車・部品(同1.1%減)や電子機器(同2.7%増)をはじめ、家電製品(同1.5%減)、機械・装置(同3.6%増)、石油化学製品(同2.2%増)がそれぞれ鈍化した。また農産品・加工品は同6.8%増(前月:同7.3%増)となり、飲料(同7.8%減)やタピオカ(同19.3%減)の落ち込みが響いて低下したものの、コメ(同22.7%増)やゴム(同41.1%増)とゴム製品(46.0%増)を中心に堅調な伸びを維持している。さらに、鉱業・燃料は同36.0%増(前月:同44.9%増)

と、依然として石油製品を中心に二桁増の高い伸びが続いている。

(図表 3)



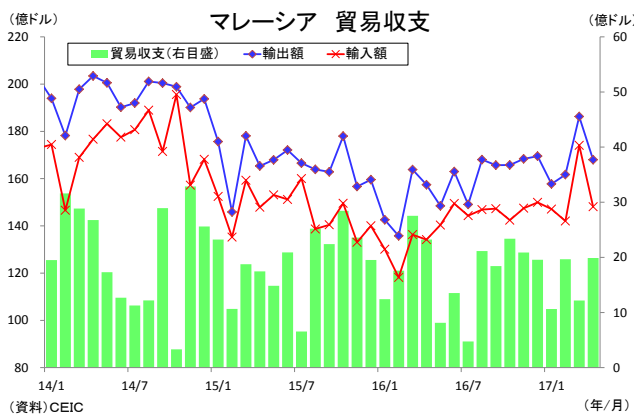
(図表 4)



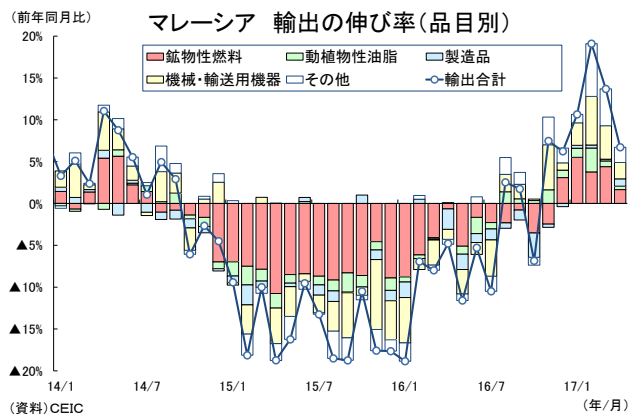
マレーシアの17年4月の輸出額は前年同月比6.7%増と、前月の同13.7%増から低下した。輸出額は資源価格の上昇や海外需要の回復によって16年初から増加傾向を続けているものの、伸び率はベース効果の剥落によって伸び悩んできている。一方、輸入額も前年同月比10.4%増と、前月の同27.7%増から低下した。結果、貿易収支は19.9億ドルの黒字と、前月から7.7億ドル黒字が拡大した(図表5)。

輸出を品目別に見ると、全体の約4割を占める機械・輸送用機器は同4.6%増と、主力の電気・電子製品(同8.2%増)が好調だったものの、船舶(24.6%減)が落ち込んで前月の同9.2%増から低下した(図表6)。また動植物性油脂も同6.7%増と、パーム油(同11.6%増)が好調だったものの、パーム核油(同20.8%減)が落ち込んで前月の同12.0%増から低下した。また鉱物性燃料は同6.7%増(前月:同12.0%増)と、石油製品を中心に低下した。一方、製造品は同9.3%増(前月:同2.1%増)と上昇した。

(図表 5)



(図表 6)

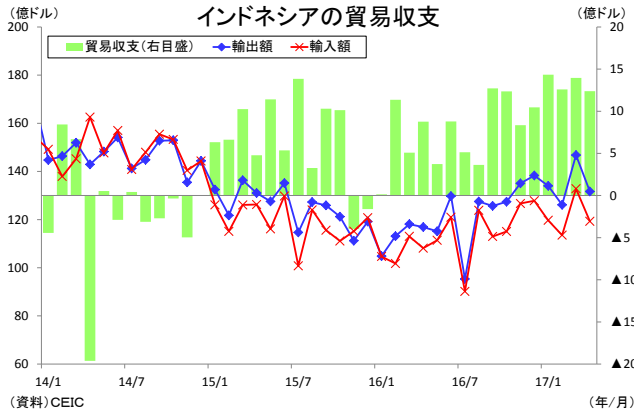


インドネシアの17年4月の輸出額は前年同月比12.6%増と、前月の同24.3%増から低下した。輸出は一次産品の価格上昇によって16年初から緩やかに持ち直し、年後半には数量ベースでも増加に転じて一段と上昇、伸び率は6ヵ月連続の二桁増を記録している。一方、輸入額も前年同月比10.3%増と、前月の同17.5%増から低下した。結果、貿易収支は12.4億ドルの黒字と、前月から1.6億ドル黒字が縮小した(図表7)。

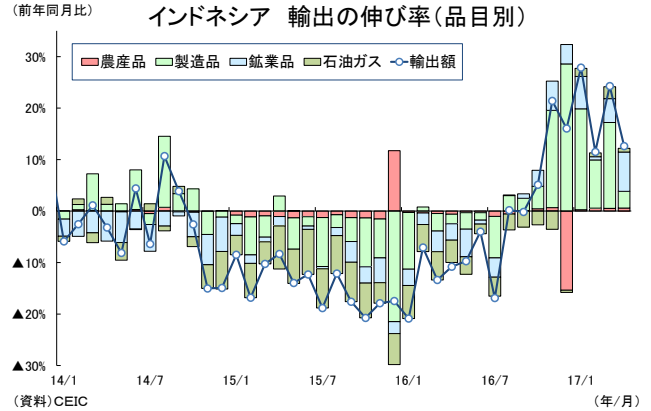
輸出を品目別に見ると、まず石油ガスが同9.5%増と、前月の同21.9%増から低下したものの、

高めの伸びとなった（図表8）。非石油ガスについては、輸出全体の7割を占める製造品は同4.0%増（前月：同21.9%増）となり、電気機器（4.7%減）が落ち込んで低下した。一方、鉱業品は同75.4%増（前月：同39.9%増）となり、鉱石・スラグ、灰を中心に大きく上昇した。また農産品も同32.9%増と、前月の同27.9%増から上昇した。

（図表 7）



（図表 8）

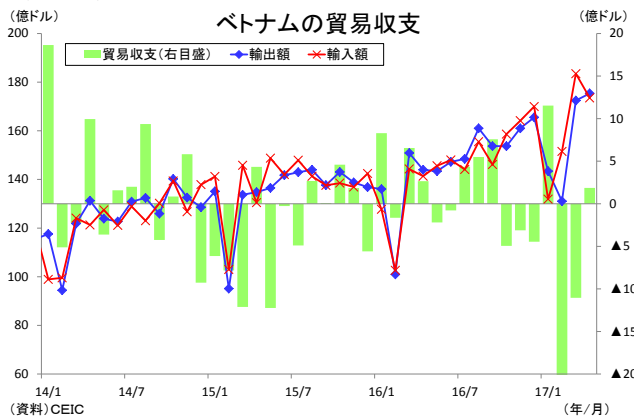


ベトナムの17年4月の輸出額は前年同月比21.8%増と、前月の同14.3%増から一段と上昇し、3ヵ月連続の二桁増を記録した。輸出の伸び率は16年前半まで伸び悩んでいたが、年後半から主力の電気・電子製品を中心に勢いを取り戻しており、足元でも政府目標（17年は+6~7%）を上回る伸びが続いている。一方、輸入額は前年同月比22.8%増（前月：同27.2%増と、引き続き高水準を維持した。結果、貿易収支は1.9億ドルの黒字となり、前月から12.9億ドル増加した（図表9）。

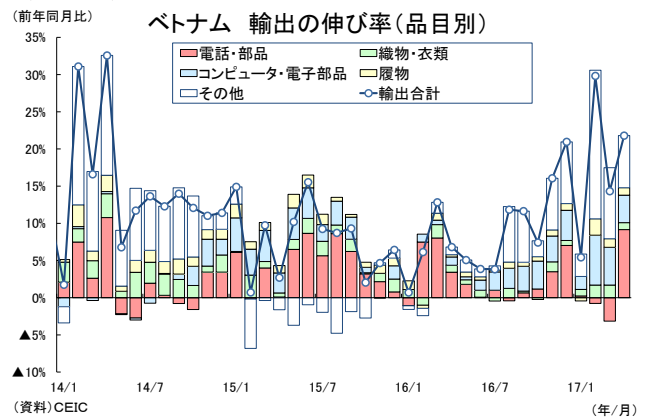
輸出を品目別に見ると、輸出全体の約2割を占める電話・部品が同43.0%増（前月：同13.3%減）と大幅に上昇し、3ヵ月ぶりのプラスに転じた（図表10）。これはサムスン電子の新型スマホの発売が4月に開始したためであり、当面高い伸びが続くと見られる。またコンピュータ・電子部品が同40.8%増（前月：同53.7%増）、織物・衣類は同7.8%増（前月：同13.9%増）、履物は同14.2%増（前月：同19.0%増）とそれぞれ前月から低下したものの、高水準を維持した。農産品についてはコメ（同18.7%増）が7ヶ月ぶりのプラスに転じたほか、野菜（同42.6%増）が好調を続ける一方、コーヒー（同3.9%減）とゴム（同2.4%減）が落ち込むなど、品目毎にバラつきが見られた。

輸出を資本別に見ると、全体の7割を占める外資系企業が同27.2%増（前月：同13.1%増）が大きく上昇する一方、地場企業が同9.7%増（前月：同17.2%増）と低下した。

（図表 9）

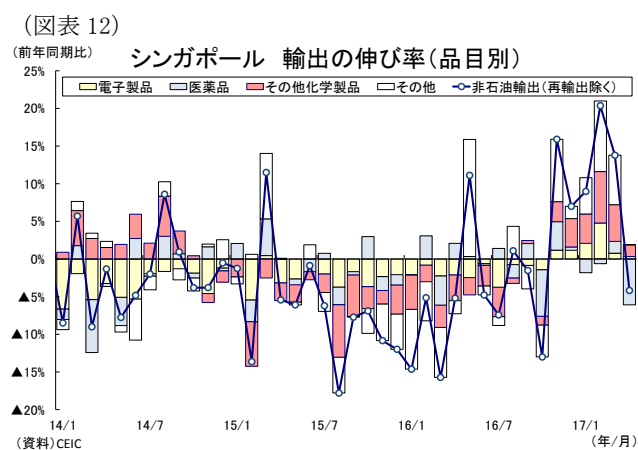
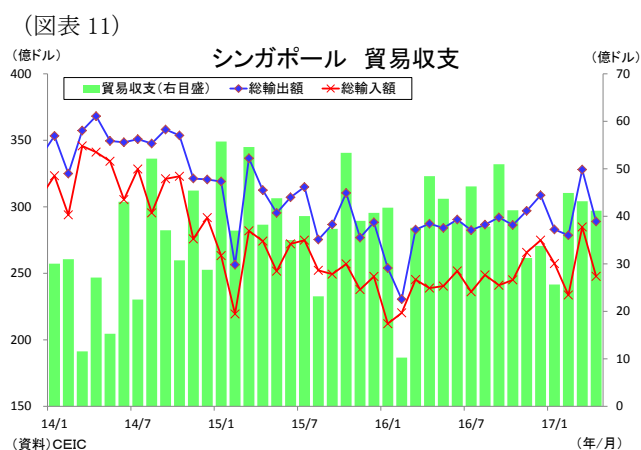


（図表 10）



シンガポールの17年4月の輸出額（石油と再輸出除く）は前年同月比4.2%減（前月：同13.8%増と、医薬品の下振れで大きく低下して6ヵ月ぶりのマイナスとなった。輸出の伸びは医薬品の変動によって上下に振れながらも、基調としては資源価格の上昇や主力の電子製品と化学製品の需要が回復して増加傾向が続いていたが、足元ではベース効果の剥落によって輸出の勢いが鈍りつつある。なお、総輸出額は前年同月比0.6%増（前月：同15.9%増）と大きく低下し、総輸入額も同3.7%増（前月：同16.1%増）と低下した。結果、貿易収支は41.2億ドルの黒字と、前月から2.0億ドル黒字が縮小した（図表11）。

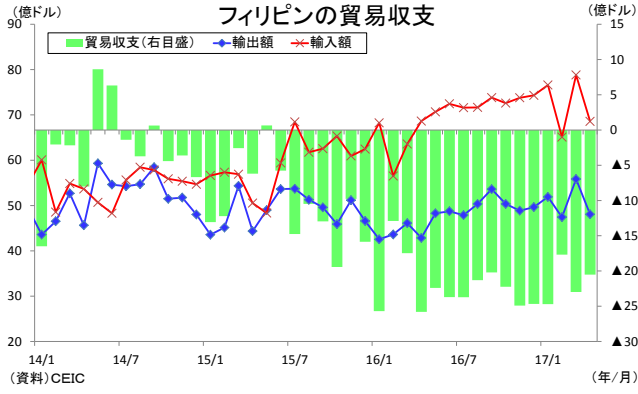
輸出（石油と再輸出除く）を品目別に見ると、まず全体の約3割を占める電子製品は同1.2%増と、前月（同2.8%増）に続いて伸び悩んだ（図表12）。電子製品の内訳を見ると、通信機器（同27.4%減）やPC（同8.2%減）、ダイオード・トランジスタ（同14.9%減）が低迷した一方、IC（同5.4%増）やPC部品（同28.3%増）が堅調を維持するなど品目毎にバラつきがみられる。また電子製品と同じく全体の約3割を占める化学は同15.1%減と、前月の同24.4%増から急低下した。化学製品の内訳を見ると、医薬品が同42.0%減（前月：同15.0%増）と下振れ、石油化学製品が同9.5%増（前月：同39.5%増）と伸び悩んだ。



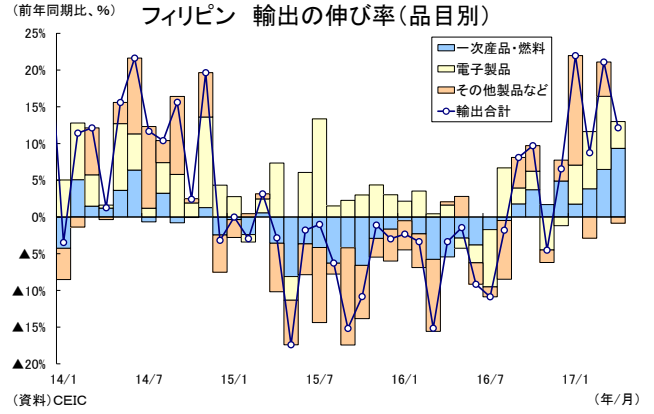
フィリピンの17年4月の輸出額は前年同月比12.1%増と、高水準となったものの、前月の同21.1%増から低下した。輸出は16年から資源価格の上昇を受けて一次産品を中心に緩やかに持ち直し、年後半には主力の電子製品も増加に転じて大幅な拡大傾向が続いている。一方、輸入額は前年同月比0.1%減（前月：同24.0%増）と低下した。結果、貿易収支は20.5億ドルの赤字と、前月から2.5億ドル赤字が縮小した（図表13）。

輸出シェア上位10品目を見ると、まず輸出全体の約5割を占める電子製品は同6.8%増と、4ヵ月連続のプラスとなったが、前月の同19.5%増から低下した（図表14）。電子製品の内訳を見ると、半導体デバイス（同7.7%増）が高めの伸びを維持した一方、これまで好調だった電子データ処理機（同1.6%減）が落ち込んだがほか、家電製品（同4.3%減）と電気通信機器（同1.3%増）が引き続き低迷した。その他9品目については、金（2,740.3%増）とその他鉱業製品（同199.7%増）、ココナッツオイル（同59.8%増）、機械・輸送用機器（同50.5%増）、金属部品（同27.9%増）、その他製造品（同11.7%増）、化学（同5.6%増）、イグニッション・ワイヤーセット（同3.7%減）と増加した品目が多かった。

(図表 13)



(図表 14)



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。